

テレビモニターに映る陣田さんと佐藤さんの話に耳を傾ける参加者たち(草津市・湖南広域消防局南消防署)



熊本地震 被災者の声に耳を

湖南消防南消防署 主婦ら電話通じ備え学ぶ

熊本地震の被災者から電話で体験談を聞く防災講座が17日、草津市の湖南広域消防局南消防署であり、子育て中の主婦ら約50人が日常の備えの大切さを学んだ。

子育てサークル「玉っこひろば」が毎年開いており、今年で6回目。熊本市出身の代表、堀江尚子さん(44)の中高時代の同級生である陣田輝子さん(44)と、益城町で被災した

佐藤めぐみさん(32)と電話をつなぎ、マイクとスピーカーを通して話を聞いた。

陣田さんは地震発生時、2人の子どもと入浴中で、車中泊も経験。

「3泊分の着替えは常に車に置いておくべき」と呼び掛けた。3児の母の佐藤さんは自宅アパートの前で毛布にくるまって一夜を過

ごし、避難所に移った。「抱っこひもと懐中電灯は枕元にあった方がいい。訓練には積極的に参加し、気持ちだけでも備えてほしい」と訴えた。

参加者たちは「起震車」に乗って地震の揺れを体感し、災害時用の炊飯袋の使い方なども教わった。

(上坂恭平)